

(2) 日置神社 (ひおきじんじゃ)

住所：〒519-1412 三重県伊賀市下柘植 2 2 6 0

TEL：0595-45-6360

J R 新堂駅から徒歩 4 0 分、名阪国道・下柘植インターから車 5 分

主祭神：天照大御神 (大日靈貴命)

祭 神：建御名方命、健速須佐之男命、大山祇神、木花咲夜比賣命、奥津比古神、奥津比賣神、市杵島比賣命、大物主神、火産靈大神



鳥居、手水舎、拝殿



さざれ石

弘法大師が立ち寄ったとされる密厳院 神王寺を左手に見ながら石段を登っていくと、「日置神社」の石柱が見えてくる。明神造りの石の鳥居をくぐると、境内広場の向こうに17段の石段があり、右手に手水舎、左手にはササキとマンリョウが植樹されており、その脇にさざれ石と石碑、それと左右に二つずつ石灯籠がある。このさざれ石は岐阜県の産で古今集に天皇の大御代の弥栄を寿ぎ祈りこの石の如くましませと詠われたわれ、後に一部改作されて日本の国歌となった。「君が代は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまで」

石段を登ると平入り瓦屋根の拝殿があり、本殿は両流造の切妻造の青色の青緑色の屋根の上には外削り（地面に対して建てに切断）の千木と5本の鯉木が乗っている。拝殿と本殿の間に阿吽の狛犬が居り、阿形の狛犬は左足で玉を、吽形は左前足で子狛を押さえている。境内には神楽殿と境内神社として八幡神社が祀られている。

御神木はスギの大木で、境内の周りには沢山のヒノキやスギ、アラカシ、タブノキなどの大木それにイヌマキ、サカキ、マンリョウ、ヤブツバキなどがある。

霊山の山麓にある日置神社は平宗清の長男、日置太郎家清により創建され、近くには日置城跡が残っている。毎年4月10日の春の例祭で舞う神事踊りは、下柘植地区と愛田地区に古くから伝わる「かつこ踊り」で、この踊りはホラ貝の音や唄に合わせ、太鼓を鳴らしながら舞い、「日置神社の神事踊り」として市無形民俗文化財の指定を受けている。